

育児休業に関する体験記

30 代 31 日間取得

① 家事 ・ 育児 について	1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか 育児休業前の話し合いでは、4歳長男の保育園送り迎えと家事全般を私が行い、生まれる長女のお世話は妻が行う。夜間は妻が極力休んで、生活サイクルを整え、体調の回復を優先しようとした。生まれてからは、妻の体調が良いときは、気分転換にと家事を行ってくれ、夜間は妻が長男と先に休み、私がその間長女のお世話を実施。AM2~3時に交代して妻が長女を見て、私が休むというリズムで生活をしていました。 また育休期間は国から助成金が支給されますが、実際に支給まで期間があるため、その間の生活費をどうするかも話し合いました。 2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 休日の日中はお互いに家事・育児を行い、夜間は長男の寝かしつけをしない方が残りの家事と長女のお世話をやっています。夜間の長女のお世話については、育休中と同様に交代で実施しています。
	(妻 記載欄) 休業取得者の家事・育児の参画の状況について 2人目であったが不安が大きく、育休で家にいてくれることが助かりました。またパパとの時間を作れたことで長男に寂しい思いをさせずに済んで良かったです。
② 仕事 について	1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか プロジェクト単位で仕事をしていることもあり、出産日が近づいた時点でプロジェクトのメイン業務は行わず、サポートを中心とした業務を行っていました。業務進捗について都度メイン担当者に報告を行って、業務の抜け漏れがでないように気をつけて行っていました。 2. 評価・反省 私がいらない分の負担を会社にかけてしまったと思いますが、育休に入るとき、また育休後スムーズに仕事に復帰できたのも、会社側が様々なサポートや配慮をいただいたおかげだと思います。

③ 自由 記述 (400 字程 度)	(取得者 記載欄) (例: 育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応) 長男の時は育休ではなく、テレワークで子供を見ながら自宅で仕事を行いましたが、今回は2人の子供を見なければならないということで、育休にしようと妻と話し会社に相談の上、育休を取得させていただきました。 また育休前ですが、妊婦は車の運転が危ないため、出産予定日の1カ月前から長男の保育園送迎や買い物等を私が行くと妻と話し、会社側にその間、時短勤務にさせてもらえないか相談をしました。会社からは時短勤務ではなくテレワークを打診していただき、出産予定日の1カ月前から自宅で仕事をしながら家事育児をすることができました。 テレワークにより、妻との時間や長男を含めた3人の時間を大切にすることができました。また長男の時はコロナ化でもあり、私が産院に入ることはできませんでしたが、今回、テレワークによって時間の調整もでき、検診付き添いから出産立会いまでできたことや、妊娠後期の大切な時期に妻の傍にいられたことは、育休と同じように重要な期間であったと感じました。 育休が終わり、私は、平日の日中は仕事を中心の生活に戻りましたが、基本的な生活環境は育休中と変わらず、これまで通り、家にいる時間は家事育児を行っています。 育休の取得は、生活環境(里帰り等)や周りのサポートによっても変わってくると思いますが、私たちの場合、夫婦2人で基本はやっていこうと話していたため、非常に大切な時間でした。
---	--